

あとがき

十年一昔といいますが、近年の急激な科学の進歩は、一年一昔の速度で進んでおり、新聞やテレビから得ていた情報は、ネットで手軽に得ることが出来るようになり、驚くばかりです。社会も年々グローバル化し、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し、教育に対する期待や要求はますます大きくなってきています。学校教育に求められているものも、グローバル化を受けたITや英語教育等々ますます多くなるばかりです。このような変化の激しい時代であるからこそ、学んだ知識を活用し、社会の中で自立し、社会の変化に柔軟に対応する能力を確実に育てていく必要があると考えます。

当然のことながら、学校におけるすべての教育活動は、学校の教育目標の具現化を目指す意図的な営みであると同時に、社会で自立できる人材育成も担っています。校内研究もまた、学校の教育目標を達成するためにどうすればよいかを全職員で追究する研究活動であるといえます。

本校では、平成26年度より、3年計画で「確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成」を研究テーマとして取り組んできました。26年度は「基礎的・基本的な知識や技能」を中心に実態調査を行い、課題を洗い出しました。そんな中で、すべての学習の基礎となる言語国語科に焦点を当て昨年度、今年度は、～本校児童に身につけさせたい力の定着に向けて（国語科「書くこと」を軸に）～をサブテーマに研究を進めてきました。授業はもちろんのこと、日常的な活動も取り入れ、「書くこと」の力の向上を目指してきました。結果、意欲的に取り組む児童が増え、子どもたちの意欲向上が見られました。そして職員一人一人が研究テーマを念頭に取り組んだことも大きな成果に繋がったといえます。また、平行して取り組んだ、学力向上専門員を講師に呼び授業改善の研修を行ったこと、学習の習慣を確立するため家庭の協力を得ながら取り組んだこと、がんばりカードを活用（学習の記録）したこと、保護者への啓発等で、少しずつ実績が上げられたと思います。

今後、3年間の研究によって積み上げてきた成果を生かし、確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもを育てていくためには、日々の実践を通してさらに研究を積み上げていく必要があります。「継続は力なり」です。個々の継続した積み重ねを忘れてはなりません。教師一人一人がさらに自己の研修を続け、個々の指導力を向上させていきたいと思えます。

わたしたちの研究活動にあたり、直接貴重なご指導ご助言を賜りました県教育委員会、甲府市教育委員会をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます、まとめといたします。

教 頭 鷹野 幸雄